



[目 次]

寄稿

フィン語のお話……………	塚田 秀雄 (1957年卒)	1
舞台は「空」……………	岡本 梓 (2001年卒)	3

秋季地理学談話会の報告 …………… 5

〈OB交流会〉	講師：郡田 篤 (2001年卒), 北川哲也 (2001年卒)	5
〈講演会〉		
「プトレマイオス地理学—ドイツ国土情報制度 GISe-4D画像地図アーカイブ航測法IMADAS」……	長谷川博幸 (1971年卒)	6

研究室便り

〈総合博物館での地図資料等の利用について〉……………	9
〈外国人研究者～訪問された方～〉……………	9
〈第五回東アジア人文研究ワークショップの開催と参加〉……………	10
〈絵葉書コレクションの公開〉……………	11
〈地理学教室への寄贈図書～2016年度～〉……………	12
〈研究室の動静〉……………	15
〈新メンバーの自己紹介〉……………	15
〈2016年度の実習旅行〉……………	17
〈学部卒業生・院生などの進路〉……………	18
〈院生の研究状況の報告〉……………	18
〈2017年度講義題目〉……………	19

事務局から

〈地理学談話会2016年度会計報告〉……………	20
〈訃報〉……………	20
〈住所不明者についてお願い〉……………	20
〈オープンキャンパス：2016年度の報告と2017年度のお知らせ〉……………	22
〈2017年度秋季地理学談話会のお知らせ〉……………	22
〈地理学教室所蔵の写真資料について〉……………	23

※表紙写真：『京都文科大学小川教授 支那採集品繪葉書 大正六年五月』のうちの1枚。

# 寄稿

## フィン語のお話

塚田 秀雄(1957年卒)

フィンランドでのたった1年の奨学金の給付期間中、東部のカレリアでの農家の聞き取り調査に、独習していたスウェーデン語が役に立つと思っていました。フィンランドはフィン語とスウェーデン語の両方を国語・公用語とするという建前がそのまま通用すると考えた浅はかさのせいです。フィン語にまつわる私の経験です。

東端、当時のソ連国境に接したイロマンチの村での予備調査を終えて、ヘルシンキへ帰るための郵便バスのターミナルでのことです。キオスクで売っている軽食のメニューに *Kuuma Koira* とありました。この単語2つは私の貧弱な語彙にも入っていました。kuuma = hot, koira = dog です。フィン語の勉強は全て英語を通じてやっていたから、この場合辞書は不要です。迷いなく *kuuma koira* を注文してその日の昼食にしました。

なぜこんなことを書き始めたかと申しますと、例えば日本人の場合、マクドナルドの店で、「熱い犬」を食べるかということと関わっています。フィン人の言葉遣いは非常に直截的で、例えばレストランは *ravintola* と云い、元々の意味は「栄養の場所」です。田舎者の私の誤解かも

わかりませんが、京言葉の対極にあるように思います。

ゲルマン諸語は云ってみれば借用語だらけですが、フィン語はそれにもましてスウェーデン語からもずいぶん多く入っています。曜日はほとんどスウェーデン語での呼び方の音訳なのですが、水曜日だけは *Keskiviikko* といって週の真ん中という意味ですから、何故かこれはドイツ語の意識でしょう。月名に関しては、フィン語は独特です。1月は *tammikuu* =カシの木の名、2月は *helmikuu* =真珠の名ですが、6月は *kesäkuu* =夏の月でそのものずばりです。11月は *marraskuu* で、なんと「死の月」です。眼に見えて毎日昼が短くなり、晴天が少なく、雪、雨が長くうっとうしい季節で、心の病の初診外来がもっとも多い時期と云われています。12月は *joulukuu* クリスマスの月で、これはスウェーデン語の *jul* クリスマスの音訳から来ています。11月中から大げなイルミネーションでクリスマスセールが始まり、「死の月」の陰鬱さから少しでも救われようとする様子を見ると、日照時間がもっとも短い時に生まれたキリストは救世主そのものです。冬至が過ぎると晴れた寒い日が多くなるのですが、日はどんどん長くなり、3月は *maaliskuu* です。*maali* は目的、目指すところといった意味あいの語で、待ち望んだ春を意味しているように思います。古典でならった睦月、如月、弥生を思い浮かべます。

ずっと後になって、ヘルシンキがヨーロッパへ出かけるのに便利な空港として、

立ち寄る日本人旅行客が多くなってからのことです。誰でも出かける白い大聖堂の下の朝市広場で、「ホット hotto !」という声が聞こえました。続けてまた「ホット」です。テント張りのコーヒーの店の親爺が私に向かって「ホット」と連呼しているのです。首をかしげていたのですが、ようやく解りました。私を日本人と見てのことです。その親爺に ” kuppi kahvi, kuuma ” と云ってベンチに腰掛けました。Kuppi は英語の cup の音訳です。Kahvi はもちろんコーヒーです。この場合、素直に Hotto と注文すればいいものを拙いフィン語で云う自分を「えーかっこしい」のいけ好かない人間とも思いますが、実はこのほうが実利があります。ほとんどすべてのフィン人は、「外国人はフィン語が分らない」と確信していますから、片言のフィン語がサービスを良くするのです。コーヒーを供する時には Toinen kuppi ? 2 杯目いかが? という習慣があるので、それを期待してのことです。

ところで、そのヘルシンキで ” Hotto ” と注文するのは日本人客に間違いないのですが、どんな人なのでしょう。喫茶店で「ホット」と注文するのと同じつもりなのでしょう。それとも外国に来たのだからと、英語で ” hot ” のつもりだったのでしょうか。まさか「冷コー」はないと思いますが、大阪弁のおばさんでしょうか、謎は深まります。

カレリアの村の調査は大変です。農家は vaara ヴァーラと呼ばれる多くのドラ

ムリンの上に 1~3 戸程度の散村を作っていて、その間は排水の困難な湿地で隔られています。聞き取りしながら調査票を埋めてゆく間も、ひとしきり終わってからも、どの農家でも初めて見る日本人に興味津々で、kahvi を出してくれます。

Kuppi が空になる暇がなく、二軒目になると、もうコーヒー腹になってしまいます。隣の農家まで 2~3 ㎞は歩くのと空気が乾いているのが救いです。

ある時、文部省にレンタカー代金を無心し、留学生仲間でフィン語ペラペラの O 君に運転してもらって、イロマンチに出かけました。森の中を走る国道の傍らで中学生くらいの女の子が二人、手を挙げています。このあたりでヒッチハイクは当たり前ですから、O 君は車を止めて二人を乗せました。何故か、O 君はフィン語の片言を並べて、リエクサの町の途中まで乗せることになりました。二人は後ろの席で年頃の子らしくおしゃべりしています。私には一部しか理解できませんでしたが、ihana という単語がしきりに出ます。二人が降りて「さよなら」と云いましたが、ハンサムな O 君が突然流暢なフィン語でしゃべりかけたのです。二人の森の妖精が真っ赤になりました。因みに ihana は私も知っていましたが「恰好いい」くらいの意味でよく使われます。質しませんでした。O 君にはそれまでもフィン語が分らないふりをして楽しんで前歴があるように思えます。

ある時、ヘルシンキ空港から市内へ向かうバスの一歩前の席に座ったのですが、

スウェーデン人の夫婦が運転手に、都心までどれくらいかかるかとスウェーデン語で訊ねています。夫婦はフィンランドでスウェーデン語も国語であることを知っていて、運転手は小学校から習ったはずのこの第二の国語の簡単な意味が分かりません。出しゃばって、運転手にフィン語で訊ね、30分という答えをスウェーデン人の夫婦に伝えました。

スウェーデンのイエヴレにある測地局文書館で古地図と付随する文書を四苦八苦して読んでいた時、暇な地方新聞の記者がインタビューに来て、翌日、「この日本人の地理学者はフィン語なまりのスウェーデン語を話す」と書いていました。本当は大阪弁なまりなのに、民族的偏見の少ないと云われるスウェーデンですが、かつて支配していた国の人々が、自分たちの音楽的アクセントと呼ばれる抑揚の豊かなスウェーデン語をいつも語頭に強勢をおいてフィン語風にしゃべられるのはあまり気に入らないようです。フィンランド南西部のスウェーデン語地域の人々がスウェーデンに移住して働くことが多かったのですが、単語には不自由しなくても、発音を非常に気にすることになります。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

#####

## 舞台は「空」

国土交通省国土地理院  
岡本 梓(2015年卒)

公務員で飛行機に乗る仕事、というと救難や警備を思い浮かべる人が多いでしょうか。

地理学専攻を卒業し国土地理院に就職して最初に配属されたのは、「飛行機を使った写真撮影」の部署でした。写真といっても報道で使われているものではなく、地図作成に必要な空中写真の撮影です。6人乗りのセスナ機で上空3,000mくらいを飛行し、飛行機のお腹部分についているデジタルカメラで撮影を行っています。民間機とは違って与圧がなく、富士山頂くらいの高度の時は酸素マスクをしながらの作業になることも多いです。またトイレもないので、フライト時間が長くなるような時はできるだけ水分を取らないなど、なかなか体調に気を遣いながらの仕事です。撮影は雲が無い状態で行わないといけないため、天気にも大変敏感になりました。この仕事を始めるまで、天気予報は雲が全天の9割あっても晴マークを出すということを知りませんでした。そのため一般の天気予報だけでなく、雲量予報や雲底高度などより詳しい天気情報を確認するようにもなりました。

一方で少し特殊だからこそのおもしろさもあります。地上と近いところを飛ぶので特に地形は分かりやすく、手元の地

図の等高線と眼下に見える山の形を見比べたり、扇状地や段丘を確認したりと、空からはたくさんのことを把握することができます。事前に撮影地区の状況を調べてはいますが、実際の風景はどんなだろうか、現地に行くまでにどんな景色が広がっているだろうかということを考えると、フライトの度にわくわくしていません。中高生もこういう経験ができれば、等高線の問題でつまずき地理に苦手意識を持つ人も減るし、むしろ地理好きが増えるだろうな、ということをつまみに思ったりもします。写真撮影は日本全国が対象で、昨年度も九州や四国、東北に行きました。噴火活動で新しく誕生した西之島の撮影のため東京の硫黄島にも降り立つなど、旅行では行けないところにも行くことができました。降り立つところは必ず飛行場ですので、様々な場所の撮影を行いつつも、実際には足を踏み入っていないところも多いですが。

地理学専攻を決めた時から国土地理院には興味を持っていましたが、当時は地図を作っているところという認識しかなく、地図作成がどのような工程で行われているかも知りませんでした。少し紹介しますと一口に地図作成の機関といっても、私の部署のように地図の元となるものを整備していたり、測定の基準点を管理したり、地図のデータを配信していたりと、色々な業務があります。でもどんな業務をしても「地図」にたどり着くというのはある意味分かりやすいですし、一方で「地図」へのアプローチの多

さに驚くこともしばしばです。

地理院は官庁ですが茨城県つくば市にあり、周りには田んぼや畑が広がっています。大学生まで大阪で暮らしており大半が電車通学だった身にとっては、自転車であぜ道の脇を歩いて通勤したり、夜田んぼからカエルの大合唱が聞こえたりするのどかさがとても新鮮でした。

物理的にも心理的にも茨城県人になりかけている中、先日卒業以来2年ぶりに地理学教室を訪れました。教室の鍵が番号式になっていること以外大きく変わった様子もなく、学生時代に一気に引き戻されました。当時はどちらかというと部活に力を注ぎ過ぎキャンパスにいる時間はそんなに長くなかったのですが、それでも地理学教室はなんとなく落ち着く場所でした。そこに行くといいてい誰かがいるという安心感が、特に卒業論文提出前の焦燥感を癒やしてくれていました。

(毎年何かは起こっているだろうと思いますが、4回生の12月末から正月明けくらいの出来事はなかなか忘れそうにありません。) 学生時代をもう一度とはちょくちょく思います。やり残したことの一つは京都観光です。あんなに有名な寺社仏閣や紅葉の名所が近くにあったにもかかわらず、あまり行くことができませんでした。職場の同期と話していても京都の人気っぷりはすごいです。茨城にいますと、「そうだ 京都、行こう。」とはなかなかないので、現在京都にいる学生の皆さんには、京都の魅力を見過ごすこ

となく是非堪能してほしいです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

最後に、地理学教室はすでに 100 年以上の歴史がありますが、今後も 150 年、200 年と地理を愛し地理に愛された学生の憩いの場であり続けることをお祈りして、筆を置きます。

## 秋季地理学談話会の報告

2015 年 10 月 31 日、文学部新館の地理学実習室と共同研究室で、秋季地理学談話会を開催し、卒業生や在学生の皆様が参加されました。講演をしてくださった長谷川博幸氏（1971 年卒）や、OB交流会で講師を務めてくださった卒業生の方々に厚く御礼申し上げます。

OB 交流会と講演会の報告をします。



測量用航空機くにかぜⅢと職員で記念写真

### <OB交流会>

卒業生の郡田篤氏（三菱自動車，2001 年卒）と北川哲也氏（日本写真印刷，2001 年卒）のお二人が講師を務めてくださいました。在学当時の思い出や社会に出るまでの体験，社会に出てからの歩みなど，エピソードを交えながら，アドバイスだけでなく温かい励ましの言葉もいただきました。活発な質疑や意見交換があり，楽しい交流の機会となりました。



機内での作業風景



OB交流会の様子

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

→↑←↓→↑←↓→↑←↓→↑←↓→↑

講師の方々と司会者（熊野貴文氏（D1）と雨宮いほ乃氏（4回生））との間で打ち合わせして、進行内容も企画していただきました。ありがとうございました。



懇親会にて

\*\*\*\*\*

<講演会>

「プトレマイオス地理学  
—ドイツ国土情報制度GISe-4D画像  
地図アーカイブ航測法IMADAS」

ジオネット（株）

長谷川 博幸(1971年卒)

歴史学・地理学を学んだ測量技術者として、学園紛争期を経験し天職を得て、日本の地籍制度・国土情報制度に地理学の使命感を感じて、歴史的現実感Historical Realityに基づく4D画像地図アーカイブ航測法IMADASと国土情報制度GISeを推進する事業家になりました。

1969年、大学封鎖のバリケードになっていた学会誌・地図のロッカーを畏友と

ともに保護して、いち早く講義再開を果たした後、地図作成の現場にこそ地理学の道があると思い、航空測量の先端会社に技術者として入社し、オランダ国際写真測量地球科学研究所留学、サウジアラビア国5万分1航空写真地形図作成でそれぞれ1年間現地生活をしました。

地球を3D画像モデルで計測対象にする空中三角測量は5世代の進化を実際の機器・ソフトシステムで習得し、基本理論は2015年の最新文献に至るまで英語・ドイツ語で翻訳習得しました。測量学の恩師の文科系ができるとは驚異であるという感懐につながっています。

地図投影法を3D-CADで、世界測地系に統一的に表現して検索可能なアーカイブとする概念を1992年国際写真測量リモートセンシング学会ワシントン会議で、「CAD地球儀;CAD-Globe」として発表したのは、Martin Beheimの地球儀（Erdapfel）の500年後のことでした。

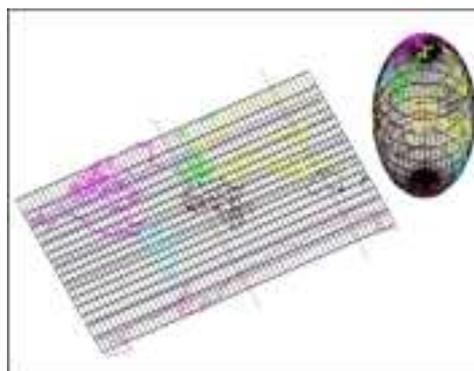


図1-1. CAD地球儀(1992)

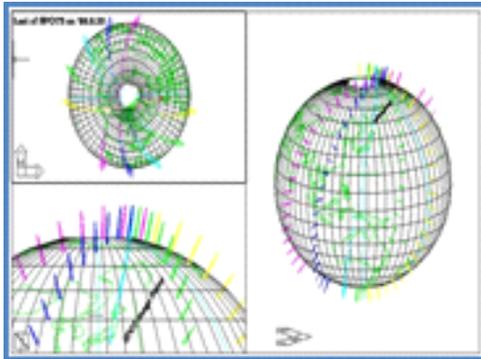


図1-2. 高解像度画像衛星軌道

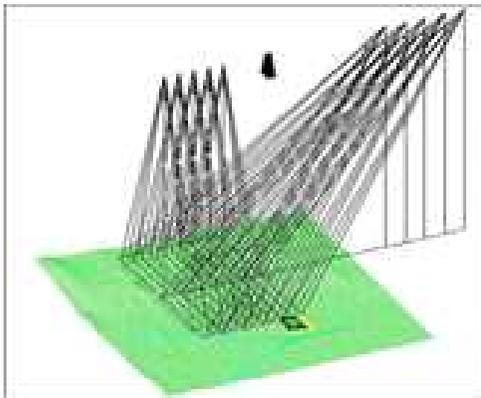


図1-3. ステレオ衛星画像 (2015)

航空写真から高解像度衛星画像の3D画像モデル形成法で世界の先端を走り、2016年3月に京大地区のステレオ衛星画像を地上解像度50cmのレベルで、Summit-Evolution3D画像計測システムと3D-CAD画面で、世界初の、計測・地図作成3Dモデルとして形成しました。

地震大国日本の地殻変動を監視する基本三角点(電子基準点)の測地網平均計算において、1995年阪神大震災以来の測位衛星(GPS, GLONASS等)によるドイツ測地学本流のパラメータ推定法衛星測量を199

9年の大阪実験以来進化させ、京都花折断層帯、大阪上町断層帯での1秒毎1cm精度の測地網平均計算に向けた地震予知事業への貢献をし続けており、地震予知不可能論を払拭すべく、ドイツ測地網の1cm精度レベルに早急に到達しようとしています。

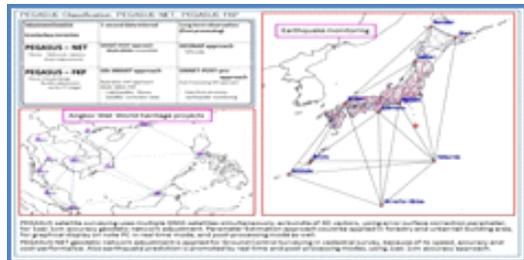


図2. 測地網平均計算PEGASUS-NET と花折断層帯1sec毎1cm測地網平均計算監視法



地理学とは何かの問い掛けに、指針を示したのが、プトレマイオス地理学でした。2010年に教養部時代の同学年の中務哲郎先生と卒論の指導教官の織田武雄先生の訳本解説を読み、円錐図法の半径について正確なご指導をいただきました。北緯36度の接円が、京都の平面直角座標系原点の北緯36度と一致するのも奇縁でありました。正に地図投影法こそが地理情報システムの基盤であると確認し、歴史民俗博物館での旧国郡界デジタル化事業以来の、輯製二十万分1図(1886) 1 3 0

図葉の世界測地系表現をAutoCADで実現しました。

これはその後のアジアアフリカ地域研究科と東南アジア研究所での共同研究となった4D-IMADAS画像地図アーカイブ航測法の方法論的基礎でした。これにより、外邦図等の世界測地系での地図アーカイブの構築法の提言を国会図書館、大英図書館地図研究所等に行い、第二次大戦中の英軍・米軍の3D画像モデルの形成法をカンボジア・アンコールワット機構で講習をして、遺跡の修復・地籍制度の整備・森林環境の保全・水利事業の効率化・観光事業への可視化資源提供の衛星画像測量・ドローン写真測量・PEGASUS衛星測量を促します。

地域研究を生態・環境問題からとらえる分野においてその基盤は土地制度(地籍制度・共同体所有)であると考え、地理情報システムの役割を地籍測量技術から見直しました。そして、ドイツの地籍測量・地籍制度が国土情報として、法律・行政

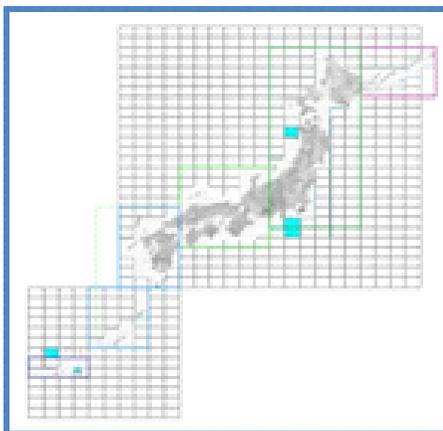


図3-1. 輯製20万集合図

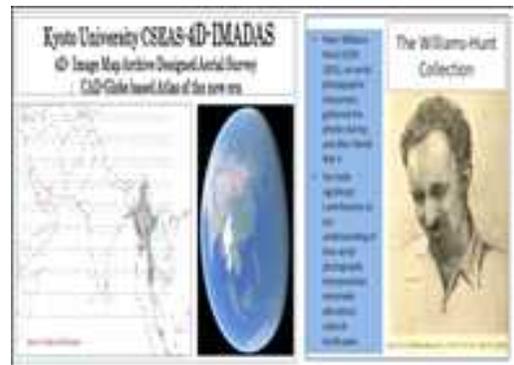


図3-2. ビルマ外邦図 4D-IMADAS

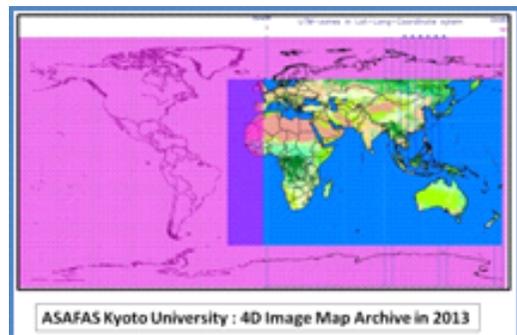


図3-3. ASAFAS-4D画像地図アーカイブ

機構・技術体系を整えていることを確認し、日本の震災復興事業の停滞などを打破するための、模範にし始めました。

ドイツ語の制約を強く感じたので、原典に戻って、翻訳を続けています。この中でISO19100台の地理情報の標準化は、世界的にはDIN-ISO-JP-GISのように繋がることを確認しました。FIG(国際測量者連盟)-Cadastre2014あるいはGDI-DE(ドイツ国土社会基盤情報)のGeoInfoDokさらにはALKIS(地籍調査デジタル規程), AFIS(ドイツ基本三角点規程)の翻訳を果たし、その基礎となる3D-CADがAutoCADであり、GI

SソフトがArcGISとQGISであり、それに参加する地理学者が強力な推進役になっていることを実感しています。従って日本の現状を解決するためには若い地理学者の方々が、行政の各方面に進出していく、理論的・技術的基礎を身に着けられることが期待されます。日本の地図作成の歴史は、世界に誇れます。条里制・国絵図作成・日本図作成・伊能図作成・明治陸地測量部以来の地図作成の実績を研究し、さらに「地図を作る人」としての、地理学者を養成したいと思います。

地理学の祖、Alexander von Humboldt, のKosmos, Entwurf einer physischen Weltbeschreibung の翻訳に、ゲーテ、ガウス、ダーウィンを始め人類の将来を語る博物学的自然科学の事績を辿るべく、皆様とともに取り掛かりたいと思います。



(www.geonetz.com)

\*\*\*\*\*

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

## 研究室便り

### <総合博物館での

### 地図資料等の利用について>

総合博物館地理資料部門に收藏されている地図資料等の閲覧・撮影などを希望される方は、他の文化史部門（日本史・考古学）同様、お手数ですが、下記の窓口までご連絡のうえ、所定の手続きをお取りくださいますよう、お願いいたします。

#### 京都大学総合博物館 事務局

電話：075-753-3272

※地図資料のうち、所蔵機関が不明なものについては、地理学共同研究室にお問い合わせください。

電話：075-753-2793

\*\*\*\*\*

### <外国人研究者～訪問された方～>

2015年12月22日から招へい外国人学者として教室に滞在しておられた丁致榮（ジョン チヨン）教授（韓国学中央研究院 韓国学大学院）に、「近世朝鮮士大夫の遊山文化」と題してご講演いただきました。丁先生は2016年12月21日まで京都におられ、帰国されました。

2016年11月7日、Håkan Wahlquist 先

生 (The Sven Hedin Foundation) に, Western maps of Asia and Sven Hedin's role in filling their last white spots と題してご発表いただきました。



丁致榮先生の講演



Håkan Wahlquist 先生を囲んで懇談

\*\*\*\*\*

### <第五回東アジア人文研究 ワークショップの開催と参加>

2017年3月14日～18日に、香港城市大学中文及歴史学系において、第五回東

アジア人文研究ワークショップが開催され、京都大学文学研究科の中国語学中国文学専修(5名)、中国哲学史専修(1名)、地理学専修(朝倉慎人、熊野貴文、谷本涼の3名)、社会学専修(1名)の大学院生10名(および共同研究者1名)、ならびに引率教員2名が参加しました。

このワークショップは、2013年より復旦大学と京都大学の合同で行われてきました。初回は京都で開催され、以降は、復旦大学の所在する上海と京都とで交互に開催されてきました。2016年のワークショップに香港城市大学がゲスト参加し、2017年には、同大学がホスト校を担当しました。これにより、正式に三大学合同のワークショップとなりました。

ワークショップには、復旦大学14名、京都大学10名、香港城市大学9名、あわせて33名の博士課程の院生が参加しました。15日と16日の二日間にわたり、「人文地理」や「地域文化研究」など、9つのセッションで研究発表(使用言語は英語もしくは中国語)が行われました。

17日は「香港の水陸」というテーマで巡検が行われました。香港が占める独特の地理的な位置とその意味を、歴史的視点からも今日的な視点からも学び、かつ、考えさせる有意義な巡検でした。

18日には、京都大学の参加学生が、「都市発達と交通・観光」、「民間信仰と習俗」、「出版事情」などのテーマを決め、数班に分かれて、事前準備をした上で、現地調査を行いました。このレポートは、2017年3月末に刊行した『報告書』に掲載さ

れました。

本ワークショップにおいては、準備段階から現地での活動、報告書のとりまとめにいたるまで、参加学生が実行委員会を組織し、全員が協力して担当しました。

2018年のワークショップは、京都大学文学研究科で開催の予定です。



学生交流の様子

\*\*\*\*\*

## <絵葉書コレクションの公開>

2017年1月末、地理学教室所蔵の絵葉書コレクションのサイトを公開しました。

<http://arcg.is/2itv0q0>



説明はこちらを参照してください。

<http://www.arcgis.com/home/item.html?id=362>

5639d89454282b44c7eb899fc910f

約1500枚の絵葉書は、京都大学文学部地理学教室で長らく保管されていたものです。多くは、20世紀前半頃の日本国内の名所旧跡の絵葉書ですが、自然景観や生活風景などを伝えるもの、火山噴火など自然災害の様子を生々しく伝えるものもあります。

画像公開のきっかけは、2015年度（前期）の全学1回生向け少人数ゼミ（担当：田中）で、絵葉書を素材として取り上げたことです。ゼミの受講生たちによる作業の成果を活かし、さらに調査や研究に広く利用されることを願い、これらの絵葉書画像と書誌情報を、地図上の位置情報と組み合わせて公開することになりました。画像公開のアプリケーションはESRI ジャパンによるもので、星田侑久氏（2005卒）に協力していただきました。

公開後、BBCから自然史番組（2017年4月21日放送）での画像使用の問い合わせがあり、制作に活用されたり、文学研究科や全学のホームページ等で紹介されたり、国際地図学会のeCARTO Newsの5月号にリンクが掲載されることになるなど、内容についても公開システムについても、内外からいろいろな反響がありました。

ぜひ、サイトを閲覧していただけますよう、お願い申し上げます。

\*\*\*\*\*

## ＜地理学教室への寄贈図書

～2016年度～>

昨年度、地理学教室にご寄贈いただいた図書の一覧です（雑誌・定期刊行物等は除く）。寄贈くださいました方々に厚く御礼申し上げます。これらの図書は、文学研究科図書館または地理学共同研究室に配置し、学生ならびに教室スタッフの研究・教育に活用させていただいております。

過去にいただいた図書も含めて、これらの寄贈図書は、皆様にもご利用いただけるようにしておりますので、どうぞご活用ください。

### （図書）

- ・帝国日本と地政学：アジア・太平洋戦争期における地理学者の思想と実践／清文堂出版
- ・駒澤大学所蔵外邦図目録 第二版 2016（CD-ROM版付き）
- ・京都の凸凹を歩く：高低差に隠された古都の秘密／青幻舎
- ・難民（思想のフロンティア）／岩波書店
- ・オランダ・ドイツに所在するシーボルト関係地図資料—ライデン・ミュンヘン・ブランデンシュタイン城を中心に—／国立歴史民俗博物館
- ・環境配慮行動の意思決定プロセスの分析—節電・ボランティア・環境税評価の行動経済学／中央経済社
- ・中国青海省チベット族村社会の変遷／連合出版
- ・ニュー FHG20 年のあゆみ／野外歴史地理学研究会
- ・近畿を知る旅：歴史と風景／ナカニシヤ出版

- ・気候変動で読む地球史：限界地帯の自然と植生から／NHK 出版
- ・狭山池築造一四〇〇年・平成二八年度特別展 河内の開発と渡来人—一部屋北遺跡の世界—／大阪府立狭山池博物館
- ・身体の構築学/民俗芸能研究会／ひつじ書房
- ・課題としての民俗芸能研究／ひつじ書房
- ・人文地理六講／高陽書院
- ・人文地理学／創元社
- ・フィールド・ノート（野帖）：文化人類学・思索の旅／新潮社
- ・都市の科学／紀伊國屋書店
- ・郷土の地理的研究法／中興館
- ・" 近世地方史研究入門／岩波書店
- ・現代都市の諸問題／地人書房
- ・地誌概論：世界編、日本編／大明堂
- ・都市地理学／大明堂
- ・地理学総論（朝倉地理学講座 1）／朝倉書店
- ・歴史地理（人文地理ゼミナール）／大明堂
- ・九州地方（訂正版）（日本地誌ゼミナール 8）／大明堂
- ・日本の都市：その特質と地域的問題点／大明堂
- ・平野の地理：平野の発達と開発に関する比較歴史地理学方法論／古今書院
- ・社会地理学の基本問題：地域科学への試論／大明堂
- ・応用地理学とその課題／大明堂
- ・地理学と社会学の接点／大明堂
- ・英國史への地理學的序考：英國中世社會の成立に関するノート／伊藤書店
- ・地理学論文のまとめ方と書き方／古今書院
- ・地理学の本質：歴史の地理的背景／古今書院
- ・自然地理学：地形編／地人書館
- ・中世城郭の研究：関東地方に於ける築城遺構の実測とその諸問題／人物往来社

- ・京都事典／人物往来社
- ・屯田兵：傳承と展開／東兆書院
- ・道の文化史：一つの交響曲／岩波書店
- ・近畿の観光地理：エクスカージョンの手引／地人書房
- ・奈良時代の貴族と農民：農村を中心として／至文堂
- ・上代の土地制度／至文堂
- ・東大寺と国分寺／至文堂
- ・北九州の古代遺跡：墳墓・集落・都城／至文堂
- ・新田開発／至文堂
- ・地方史研究必携／岩波書店
- ・集落調査法／古今書院
- ・「岩宿」の発見：幻の旧石器を求めて／講談社
- ・武蔵野の集落／古今書院
- ・古墳文化と古代国家／至文堂
- ・国造と県主／至文堂
- ・大和考古学散歩／学生社
- ・神社／至文堂
- ・近世の新田村／吉川弘文館
- ・国府／吉川弘文館
- ・蝦夷／吉川弘文館
- ・条里制／吉川弘文館
- ・律令制の基調／塙書房
- ・先史地域及び都市域の研究／柳原書店
- ・都市と交通路の歴史地理学的研究／大明堂
- ・岬半島の人文地理：愛媛県佐田岬半島学術調査報告／大明堂
- ・離島の人文地理：鹿児島県甬島学術調査報告／大明堂
- ・近代地理学の潮流：形態学から生態学へ／大明堂
- ・条里制の研究：歴史地理学的考察／創元社
- ・フランスの農村：その地理学的研究／古今書院
- ・古代地理学史の研究：ギリシア時代／柳原書店
- ・人文地理学論叢：織田武雄先生退官記念／柳原書店
- ・歴史地理研究と都市研究（上・下巻）／大明堂
- ・人文地理学の視園／大明堂
- ・文明の原動力／實業之日本社
- ・古代の歴史と景観（宇治市史 1）／宇治市
- ・日本の風土：その地理学的研究／大八洲出版
- ・歴史的景観の美：日本の歴史的景観の変遷／河原書店
- ・平野の開発：近畿を中心として／古今書院
- ・古地図で見る京都：『延喜式』から近代地図まで／平凡社
- ・植村善博古希記念誌—地理学探究の記憶—／植村善博先生古希記念事業委員会
- ・京都を学ぶ 洛北編—文化資源を発掘する—／ナカニシヤ出版
- ・江戸・明治の古地図からみた町と村／敬文舎
- ・近代日本の海外地理情報収集と初期外邦図／大阪大学出版会
- ・都市空間分析／古今書院
- ・ポイント整理で学ぶ水産経済／北斗書房
- ・近現代の空間を読み解く／古今書院
- ・漁業，魚，海をとおして見つめる地域／冬弓舎
- ・昨日到城市：近世中國的逸樂與宗教／聯經出版事業
- ・第五屆復旦大學-京都大學-香港城市大學 東亜人文研究研討会 會議手冊 2017.3.15- 16
- ・第五屆復旦大學-京都大學-香港城市大學 東亜人文研究研討会 論文集 2017.3.15-16
- ・지리산지 농급과 촌락 연구」 정치영／高麗大學校民族文化 研究所
- ・사대부, 산수 유람을 떠나다／Academy of Korean Studies Press
- ・Cartographic Japan: a history in maps／University of Chicago Press.
- ・Community-based organizations: the intersection of social capital and local context in contemporary urban society

／ Wayne State University Press

- ・ *Vanhaja Suomen karttoja (Old Maps of Finland)* ／ Kustannuskilta
- ・ *Scandinavia in Old Maps and Prints* ／ Mappamundi
- ・ *Suomen Kartasto 1910* ／ Suomen maantieteellinen seura
- ・ *Suomen kartasto 1960* ／ Kustannusosakeyhtiö Otava
- ・ *Map making: the art that became a science* ／ Little, Brown
- ・ *K. B. S. bibliography of standard reference books for Japanese studies, with descriptive notes V. 2. Geography and travel*
- ・ *An introduction to human geography* 6th ed. ／ Hutchinson
- ・ *GEOGRAPHY OF KOREA (Understanding Korea No.7)*
- ・ 조선의 명승 ／ Academy of Korean Studies Press

#### (雑誌)

- ・ 茨城地理 17号
- ・ エネルギー史研究 no.31
- ・ えりあぐんま 22号
- ・ 沖縄地理第13-16号
- ・ お茶の水地理 55号
- ・ 海洋地質図 no.87 (CD) 「金華山沖表層堆積図」
- ・ 海洋地質図 no.88 (CD) 「見島沖海底地質図」
- ・ 観光科学研究 9号
- ・ 関西学院史学 44号
- ・ 京都府漁協だより 15-16号
- ・ 京都ラテンアメリカ研究所紀要 No.15 (京都外国語大学)
- ・ 空間・社会・地理思想 20号
- ・ 国土館大学地理学報告 no.24
- ・ 国土地理院概要 (2017)
- ・ 駒澤地理 52-53号
- ・ しま 第62巻, 第1-4号 ((財)日本離島センター)
- ・ 新建築 4月号 (2016) 別冊「都市を再生させる」
- ・ 石炭研究資料叢書 no.37
- ・ 地域研究年報 38 (筑波大学)
- ・ 地域研究 vol.56 (立正地理学会)
- ・ 地域と社会 19号 (大阪商業大学)
- ・ 地域防災 No.9-12
- ・ 地學雑誌 vol.125, no.2-6
- ・ 地學雑誌 vol.126, no.1
- ・ 地図情報 vol.36 no.1-4
- ・ 地理 vol. 61, 4-12月号
- ・ 地理3月増刊 地理×お茶の水女子 (2016)
- ・ 地理11月増刊 シーボルトが日本で集めた地図 (2016)
- ・ 地理 vol. 62, 1-4月号
- ・ 地理誌叢 57巻2号, 58巻1号 (日本大学地理学会)
- ・ 地理学評論 vol.89, no.3-6
- ・ 地理学評論 vol.90, no.1-2
- ・ 地理学研究 44号 (駒澤大学)
- ・ 地理学研究 63-65 (香川大学)
- ・ 地理学報告 118号 (愛知教育大学)
- ・ 地理研究 23-24号 (法政大学)
- ・ ちりレポ 14号 (城北学園)
- ・ 東北学院大学論集 歴史と文化 54号
- ・ 東北文化研究所紀要 48号
- ・ 砺波散村地域研究所研究紀要 33号
- ・ なじまあー Accessible Asia ー 6号 (立教大学)
- ・ 奈良大地理 22号
- ・ 日本海地域の自然と環境 23号 (福井大学)
- ・ 人間科学 第33-35号 (琉球大学)
- ・ 人間文化 H&S 39-40 (神戸学院大学)
- ・ 広島大学現代インド研究 空間と社会 Vol.7
- ・ 文化史學 72号 (同志社大学)
- ・ 兵庫地理 60-61号
- ・ 法政地理 48号

- ・待兼山論叢 日本学篇 50 (大阪大学)
- ・山形大学紀要 (社会科学) 47 卷 1-2 号
- ・立命館地理学 28
- ・歴史人類 45 号 (筑波大学)
- ・早稲田大学大学院教育学研究科紀要 別冊 24 号-1, 2, 27 号
- ・2015 JAPANESE PROGRESS IN CLIMATOLOGY (法政大学)
- ・AFRICAN STUDY MONOGRAPHS, vol.37 no.2 ~ 5, vol.38 no.1
- ・AFRICAN STUDY MONOGRAPHS, Supplementary Issue no.53
- ・ASIAN AND AFRICAN AREA STUDIES, no.15-1, 2, no.16-1, 2.
- ・CSEAS NEWSLETTER, No.73 (京都大学東南アジア研究所)
- ・GEOGRAPHICAL REPORTS OF TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY, No.51
- ・LATSS Review (国際交通安全学会誌), Vol.41, No.3
- ・SOUTHEAST ASIAN STUDIES, vol.5, no.1-3
- ・Southeast Asian Studies 東南アジア研究, vol.54, no.1-2
- ・Tsukuba geoenvironmental sciences, vol.11 (筑波大学)

#### (報告書)

- ・平成 25 年度市立大学戦略的研究基盤形成支援事業 21 世紀海域学の創成—「南洋」から南シナ海・インド洋・太平洋の現代的ビジョンへ— 研究報告書 1 ~ 3 (2013 ~ 2015 年度) (立教大学アジア地域研究所)
- ・2015 年度 地域調査実習報告書「愛媛」(金沢大学 人文学類地理学教室)
- ・沖縄戦の現在—京大生のみた 71 年目の沖縄 (京都大学文学部・大学院文学研究科 平成 28 年「二十

世紀学 (演習Ⅱ)」成果報告書)

- ・農業と農産物から見た福島県郡山市一土地利用, 農家女性, ブランド野菜, 米加工 (首都大学東京都市環境学部地理環境コース 2015 年大巡検報告)
- ・第五回復旦大学-京都大学-香港城市大学 東アジア人文研究研究会 報告書 (2017)

\*\*\*\*\*

### <研究室の動静>

教室の事務は、引き続き三上純子さんをお願いしております。

本年度は、大学院博士後期課程 5 名、修士課程 11 名、学部 4 回生 19 名、3 回生 14 名、研究生 1 名が在籍しています。

### <新メンバーの自己紹介>

本年度は、新たな顔ぶれとして、3 回生 14 名、修士課程 1 名を迎えました。本年 4 月に再入学した 1 名を含めて、皆さんに簡単に自己紹介させていただきます。

(3 回生)

赤壁 諒一

赤壁と申します。生まれも育ちも大阪の北東部(枚方-寝屋川)です。附属図書館よりも吉田南図書館の方が好きです。地理学はこれから学習していきます。よろしくお願ひします。

秋本 啓太

3 回生の秋本啓太です。島根県松江市出身ですが隠岐島や石見地方にも住んだことがあります。幼いころから地図を見るのが好きです。趣味はサイクリングと、行ったことがない所に行ったり、通ったことがない道を通ることで、よろしくお願いします。

東 大貴

3 回生の東大貴です。奈良県出身です。昔から地図が好きで、地図で見た場所へ実際に赴いたり、逆に行ったことのある場所を後から地図で追ってみたりすることに興味がありました。あらゆる分野の地理に興味がありますが、自然地理が好きです。

大友 葵

3 回生の大友葵です。京都についての歴史地理に興味がありますが、ほとんど無知の状態なので他の分野も含めて広く学んで行きたいと思っています。よろしくお願いします。

岡崎 真琴

今度地理学専修に配属された岡崎です。私の主な趣味は鉄道であり、それゆえに鉄道やまたそれに伴う観光形態の変化について研究したいと考えております。大学生活では日本各地を訪れて自分の知見を広げられたらと思います。よろしくお願いします。

岡本 瑞紀

地理学専修新 3 回生の岡本瑞紀です。宮城県仙台市の出身です。鉄道研究会に所属しています。今まで 45 都道府県に足を踏み入れましたが、鳥取と島根だけ未踏です。資格として教員免許の取得を目指しています。よろしくお願いします。

栢野 ななせ

かやのです。昔現在の紫野の辺りにあった地名らしいです。広島市出身、ジャンル問わず音楽と楽器好きで、今はマンドリンをやっています。好きな私鉄は江ノ島電鉄。地理学専修であることにかこつけていろいろな地域を見たいです。よろしくお願いします。

塩崎 皆人

3 回生の塩崎皆人（みなと）です。とても“海っぽい”名前ですが、生まれは山梨で育ちが埼玉、大学も京都市内という潮の香りとは無縁な人生を送ってきました。現時点では京都市内の交通に興味を持っています。これからよろしくお願いします。

重永 瞬

寺社めぐりが好きで、そこから歴史や地理に興味を持ちました。宗教が都市景観に与える影響に関心があります。出身は京都で、地元が大好きです。昨年京都検定 1 級を取りました。京都大学地理学研究会というサークルに入っています。とても愉快的なサークルです。

鈴木 晶登

三回生の鈴木晶登です。文学部で地理学を学ぶという事が今一つ掴めないでいます。今の所の根城は能楽部のボックスだったり、自転車で北山の集落を廻るのが趣味だったり。とんだ根無し草で迷惑かも知れませんが、よろしくお願いします。

田中 沙枝

はじめまして、新3回の田中沙枝です。出身は高知県で、自然が多く食べ物の美味しい所です。イメージ通りお酒もよく飲みます。地理学の知識がまだまだ浅いので興味のある分野以外にも様々なことを学んでいきたいです。よろしく申し上げます。

深谷 一帆

初めまして、3回の深谷一帆と申します。下の名前はかずほと読みます。元々歴史をやろうと思ひ大学に来たのですが、興味が変わり地理を専攻することになりました。インフラに興味があります。バンドが趣味です。猫が好きです。埼玉出身です。宜しく申し上げます。

皆木 香渚子

受験生の時から京大の地理学教室にずっと入りたいと思っていたので、念願叶って悦には入っています。趣味は街歩きや軽めの登山で、大学在学中に京都一周トレイルを制覇したいと思っています。これから宜しく申し上げます。

吉野 月華

3回生の吉野月華です。幼い頃からアジア地域の宗教や文化に興味があり、そのまま成長しこの専修に入りました。ウインドサーフィン部に所属しており日本人らしくない肌の色をしていますが、驚かないでください。よろしくお願い致します。

(4回生)

矢部 文斗

色々な巡り合わせから、また地理学教室にお世話になることとなりました。学びの場と機会を得られるということはそれ自体で大きな喜びです。先生方のご恩情に深く感謝しながら、自らを律し努力していきたく存じます。

(修士課程)

神品 芳孝

明治大学文学部から参りました神品芳孝(こうしなよしたか)です。神品というのは大分県の豊後大野というところに多くある名字です。因みに出身は神奈川県です。“神品”という名字をきちんと読んで頂けるように普及に励んでいます。皆様宜しくお願い致します。

\*\*\*\*\*

### <2016年度の実習旅行>

2016年度は、10月24～27日まで、広島県呉市において、2回生・3回生の計

16名が調査を行い、報告書を作成しました。



#### 〈学部卒業生・院生などの進路〉

##### \* 学部卒業生

益田 天朗	杉並区役所
雨宮 いほ乃	文学研究科 (修士課程)
金子 彰洋	日本製粉(株)
北村 光平	新日鐵住金(株)和歌山製鐵所
桐山 智久	JFE スチール (株)
粉川 春幸	文学研究科 (修士課程)
坂下 結子	(株)読売新聞大阪本社
嵯峨 健史	鹿島建設(株)
田畑 菜里香	トヨタ自動車(株)
土岐 馨	文学研究科 (修士課程)
中野 洋志	文学研究科 (修士課程)
藤井 瑛子	日本生命保険相互会社
野城 千穂	(株)朝日新聞社

##### \* 修士課程

大谷 侑也	文学研究科(博士後期課程)
谷本 涼	文学研究科(博士後期課程)

##### \* 研究生

馬 可越 文学研究科 (修士課程)

\*\*\*\*\*

#### 〈院生の研究状況の報告〉

今年度までの院生の研究状況を報告します。以下は、閲読を経た論文のリストです。

##### D 3 朝倉 慎人

- ・生活空間への観光のまなざしと住民の対応—徳島県三好市東祖谷地区を事例として—, 人文地理, 66-1, 16-37 頁 (2014)

##### D 2 熊野 貴文

- ・大阪大都市圏郊外における戸建て住宅地の変容—近鉄学園前駅周辺の住宅地の事例—, 人文地理, 66-4, 46-62 頁 (2014)
- ・バブル経済崩壊後の大阪大都市圏における戸建住宅供給—既成市街地での供給を中心に—, 地理学評論, 90-1, 25-46 頁 (2017)

##### M 2 谷本 涼

- ・京都市のタクシー業界による移動サービスの多様化, 人文地理, 67-3, 252-266 頁 (2015)

##### M 1 岡田眞太郎

- ・指定管理者制度の活用からみた NPO 法人の持続可能性—京都府を事例に—, 人文地理, 68-3, 355-373 (2016)

\*\*\*\*\*

<2015年度講義題目>

\* 講義 (系共通科目) \*

水野一晴・石川義孝 地理学概説

\* 特殊講義 \*

教授 石川義孝 人口減少時代の日本における地理学的課題の検討

教授 田中和子 文献資料や古地図から空間分析へ

教授 水野一晴 世界の自然環境と人々の生活や社会

准教授 米家泰作 山と森の歴史地理(前期) / 近代日本の植民地と地理的知 (後期)

客員教授 埴淵知哉 健康地理学の諸問題 (前期)

人環教授 小島泰雄 中国農村の生活空間研究 (前期) / 中国における都市農村関係 (後期)

人環教授 小方 登 地理情報・衛星画像の処理・分析の基礎 (前期)

人環准教授 山村亜希 戦国・近世都市を読む・歩く (前期) / 戦国時代日本の「地理」を読む (後期)

防災研准教授 松四雄騎 自然地理学の応用としての斜面減災論 (前期・集中)

講師 三木理史 水都大阪の近現代都市交通史 (前期) / 満洲の植民地化と南満洲鉄道の輸送 (後期)

講師 佐野静代 水環境と都市・村落の歴史地理 (前期) / 生業と資源の歴史地理 (後期)

講師 中澤高志 新たな経済地理学の構築に向けて (前期・集中)

講師 星田侑久 GIS の理論と応用 (前期・集中)

※ (演習 / 20 世紀学科目と共通)

客員准教授 上杉和央 戦争の記憶の現在 (前期) / 「地域らしさ」へのアプローチ ~ 景観調査を通じて ~ (後期)

\* 演習 I — 地理学研究法 — \*

石川義孝・田中和子・水野一晴・米家泰作

\* 演習 II — 4 回生演習 — \*

石川義孝・田中和子・水野一晴・米家泰作

\* 講読 \*

教授 石川義孝 英語地理書講読  
教授 田中和子 ドイツ地理書講読  
文学研究科教授 小山 哲 フランス地理書講読 (前期)

人文研助教 小川佐和子 フランス地理書講読 (後期)

人文研助教 森川裕貫 中国地理書講読 (前期・後期)

\* 地理学実習 \*

石川義孝・田中和子・水野一晴・米家泰作

\* 大学院演習 — 地域の諸問題 — \*

石川義孝・田中和子・水野一晴・米家泰作

\*\*\*\*\*

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

## 事務局から

### <地理学談話会2016年度会計報告>

(2016年4月1日～2017年3月31日)

#### 【資金会計】

##### <収入>

年会費	139,500
寄附金	0
利子	1
前年度繰越金	334,230

---

計 475,731

##### <支出>

運営への振替	319,856
郵便振替手数料	7,440
次年度への繰越	148,435

---

計 475,731

#### 【運営会計】

##### <収入>

資金会計からの振替	319,856
秋季懇親会会費	51,000
春季懇親会会費	151,200

---

計 522,056

##### <支出>

秋季懇親会	46,213
講師3名交通費	30,500
OB交流会経費	0
春季論文発表会経費	151,200
会報・名簿等印刷費	202,296
会報製本費用	0
通信・文具等費	90,925
弔電・供花等	922

---

計 522,056

(※ 2016年度に名簿を発行しました)

\*\*\*\*\*

### <訃報>

前回の会報以降、次の方々がお亡くなりになりました（お亡くなりになったとのお知らせをいただいた方を含みます）。  
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。（確認分、括弧内は卒業年、敬称略）

#### <訃報>

鷺谷 克良 (1963 卒)

土井 仙吉 (1944 卒)

\*\*\*\*\*

### <住所不明者についてお願い>

以下の会員の住所が不明です。ご存じの方は、談話会事務局までご一報ください。（数字は卒業年、敬称略）

安福 伸光	(1997 卒)	木村 理恵	(2002 卒)
池内 麟太郎	(1973 卒)	久保田 彰	(2013 卒)
石角 強	(1970 卒)	坂部 誠治	(1991 卒)
石田 陽介	(2002 卒)	島崎 郁司	(1996 卒)
石橋 弘嗣	(2006 卒)	嶋野 浩一朗	(1997 卒)
石原 大嗣	(1997 卒)	清水 究吾	(1998 卒)
石原 美歩	(1995 卒)	新谷 泰久	(1990 卒)
石村 裕輔	(1992 卒)	鈴木 伸国	(1988 卒)
今井 平八	(1944 卒)	田島 渡	(1948 選卒)
岩部 敏夫	(1991 卒)	田辺 賢一郎	(1949 卒)
上田 直人	(2009 卒)	田村 麗花	(2014 卒)
上村 謙介	(1998 卒)	都子 屋	(1940 委卒)
内山 隆之	(1987 卒)	帛田 剛	(2014 卒)
江崎 健治	(1992 卒)	長尾 拓磨	(2013 卒)
遠藤 元	(1996 卒)	中山 耕至	(1993 卒)
遠藤 正雄	(1978 卒)	那須 久代	(1988 卒)
太田 隆文	(1997 卒)	檜崎(藤川)こず恵	(1998 卒)
大野 宏	(1992 卒)	南部 一寿	(1999 卒)
大山 晃司	(1995 卒)	西井(小林)理子	(2002 卒)
岡本 靖一	(1967 卒)	西尾 正隆	(1970 卒)
岡本 美津子	(1987 卒)	西澤 仁晴	(1974 卒)
興津 俊之	(1991 卒)	西山 隆彦	(1995 卒)
小口 稔	(1991 卒)	能勢(朝倉)正寛	(1962 卒)
楓 雅之(泰昌)	(1945 卒)	野瀬 美咲	(2010 卒)
片寄弘也	(2004 卒)	林(東)洋子	(1965 卒)
勝村(赤座)眞知子	(1973 卒)	原 健太	(2003 卒)
叶谷 房子	(1998 卒)	原 潤	(1997 卒)
川合 大地	(1998 卒)	平井 素子	(1996 卒)
川添 和明	(1995 卒)	福田 新一	(1971 卒)
貴志 謙介	(1981 卒)	古川 昇平	(2006 卒)
木地 節郎	(1949 卒)	前田 奈実	(1999 卒)
北口 卓美	(1990 卒)	松本 弘史	(1983 卒)
木村 宏	(1949 卒)	御手洗 央治	(1993 卒)
木村 洋之介	(1949 卒)	宮澤 博久	(2005 卒)

宮原 耕一 (1994 卒)  
 保江 志帆 (2003 卒)  
 山口 一郎 (1980 卒)  
 山口 秀樹 (1997 卒)  
 山下 良 (1989 卒)  
 山田 潤哉 (1997 卒)  
 山田(児玉) 憲子 (1970 卒)  
 山田 浩子 (2000 卒)  
 山中 一高 (1991 卒)  
 吉岡 朝日 (2003 卒)  
 吉野 修司 (1995 卒)  
 吉村 健志 (2002 卒)  
 六嶋 美也子 (1993 卒)  
 李 禧淑 (2001 博卒)  
 渡邊 克己 (2004 卒)

## ＜オープンキャンパス：2016年度の報告と2017年度のお知らせ＞

2016 年 8 月に京都大学のオープンキャンパスが開催されました。文学部の見学・説明会もこの一環として、9 日に行われました。文学部の全体説明のあと、各自が希望する専修の研究室を訪問してもらいました。



2017 年度の京都大学主催の全学オープンキャンパスについては、

<http://www.kyoto-u.ac.jp/> をご覧下さい。

文学部の見学・説明会は、8 月 9 日（水）の予定です。

地理学教室では、大学院の受験志望者や、中学高校の教員の方々、また、一般の市民の方にも参加して頂けるような見学会を 11 月 11 日（土）に開催する予定です。詳細な日程や参加申込の案内は、地理学教室のホームページ、

[http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/geography/geo-top\\_page/](http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/geography/geo-top_page/)

に掲載する予定ですので、ご覧下さい。

## ＜2017年度秋季地理学談話

### のお知らせ＞

本年は、下記のようなプログラムを予定しております。ぜひお越しください。

記

日 時：11 月 11 日（土）

午後 1 時—5 時

場 所：文学部新館

◎教室見学会：午後 1 時より

◎OB 交流会：午後 2 時より

講師 山本 浩介 氏 (2004 年卒)

廣本 幸子 氏 (2008 年卒)

(文学部新館 地理学実習室)

◎講演会：午後 3 時半より

伊東 理 氏 (1974 年卒)

(文学部新館 地理学実習室)

◎懇親会：午後 5 時より

(文学部新館 地理学共同研究室)

\*\*\*\*\*

## <地理学教室所蔵の

### 写真資料について>

地理学共同研究室や総合博物館地理作業室のロッカーの中に保管されていた地理学教室関係者の古い写真が数百枚あります。

卒業生の方々に見ていただき、写真に関する情報のご提供や、整理方法のご教示などをいただければと願っております。

どうぞ、お気軽に教室をお訪ねいただき、アルバムをご覧くださいませよう、お願い申し上げます。

\*\*\*\*\*

☆一年あたり千円を目処として、それぞれの会員の方々に、談話会の運営経費へのご協力をお願いしております。随時、ご支援をお願いいたします。納入の際は、同封しております「郵便振替用紙」をご利用下さい。

また、銀行振り込みも可能ですので、下記の口座をお願いいたします。

みずほ銀行 出町支店 (普)

1143293 チリガク ダンワカイ

(チリガクとダンワカイの間にスペース有り)

京都大学文学部地理学談話会 会報 第 28 号

発行日 2017 年 5 月 15 日

発行者 地理学談話会

〒 606-8501

京都市左京区吉田本町

京都大学文学部 地理学教室内

TEL: 075-753-2793 (直通)

発行所 京都大学文学部地理学教室

URL [http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/geography/geo-top\\_page/](http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/geography/geo-top_page/)